川の流れのように

一所懸命に生きた分だけ
人生は素晴らしい。

森　光子

田中邦衛
谷　啓
いかりや長介
久我美子
三崎千恵子
菅井きん

滝沢秀明

西村雅彦
段田安則
柄本　明

大滝秀治

秋元　康 監督作品

音楽監督=久石　譲　主題歌=「川の流れのように2000」(日本コロムビア)　脚本=遠藤察男／秋元　康　原作=「最後の場所～川の流れのように～」(集英社刊)

201757-202 (R)(PG12) 東宝シネマ・クラブ

製作=株式会社エイティーワン・エンタテインメント／東宝株式会社／株式会社電通　特別協力=株式会社ひばりプロダクション　撮影協力=静岡県伊東市　制作=株式会社デスティニー／株式会社エイティーワン・エンタテインメント　配給=東宝

©2000「川の流れのように」製作委員会

――早くも寄せられた感動の声の数々――

- 「とてもやさしい、生きる力を与えられるような映画」（47才・主婦）
- 「人生の最後にいかに満足できるか。これからの高齢化社会の一端も見えて、他人事でなかった。」（57才・会社員）

- 「〝年を取ることと、あきらめることは違う〟という主人公の言葉が心に残った」（40才・女性）
- 「大人のメルヘンを感じさせる、やさしく暖かな映画。」（45才・女性）

※以上、試写会でのアンケートより

地図のない道だから、人は迷い、めぐり逢う。

森 光子、37年ぶりの映画主演。

日本映画界の誇る名優たちが豪華共演。

主演は昨年末「放浪記」1500回公演を達成した、昭和を代表する女優、森光子。共演に田中邦衛、谷啓、いかりや長介、久我美子、三﨑千恵子、菅井きん、大滝秀治の日本映画界を支えてきた重鎮・名優達が勢揃い。ほかに、テレビ・舞台でも活躍中の西村雅彦、段田安則、そして若手NO.1俳優・滝沢秀明も加わり、この作品でしか実現し得ない最高に贅沢なキャスティングで、それぞれの“人生”の奥深さを披露してくれます。監督は、この曲の作詞者である秋元康が、オリジナルの作品世界を情感豊かに感動的に演出。音楽は、久石譲が新たにアレンジした主題歌に加え、書き下ろしの佳曲を散りばめた壮大なスコアを完成させました。

「この曲をモチーフに、“生きる喜び”を映画にしたいと思った」――― 秋元　康

【主な登場人物】

広沢百合子……森　光子
松田一平……田中邦衛
三崎時夫……谷　啓
森下哲司……いかりや長介
塩川ユキ……久我美子
野口よね……三﨑千恵子
三崎しんこ……菅井きん
浜本　明……滝沢秀明
松田新平……西村雅彦
森下哲夫……段田安則
刑事……近藤真彦
出前……赤坂　晃
出版社編集長……柄本　明
中山孫七……大滝秀治

“人生、決して悪いことばかりじゃない。これからだって。”

物語は、ひとりの女流小説家がその村に行き着いたことから始まった。

かつての活気を失った漁村。そこには、静かにひっそりと肩を寄せあいながら暮らす老人達がいた。ある雨の日の午後、女性小説家・百合子はその村にやって来た。都会的センスの若々しい服装で、村の雰囲気には似合わない様子。誰も住まなくなっていた岬の一軒家に落ち着き、この村での生活を始めた。村の老人達は百合子を変人扱いし、好奇の目で見た。

●

意外なことに、百合子の最初の理解者となったのはカメラマン志望の青年・明だった。この村で生まれ育った明は、老人ばかりになったこの村から早く出て行きたいと思っていたが、慕っていた姉を亡くした悲しみから抜け出せないでいた。

●

百合子の明るい笑顔と生きる事へのひたむきさは、やがて、沈んでいた老人達の気持ちを少しずつ動かし始める。一平は開店休業状態の時計店を再開。時夫は、持病の痛風を忘れ、岬の家のペンキ塗りに精を出す。元漁師の哲司は再び船に乗りたいと思うようになり、ユキ、よね、しんこは何十年ぶりかに化粧をした。百合子は老人達に忘れていた何かを思い出させたのである。

●

百合子に勇気を与えられ、希望を胸にニューヨークへと旅立っていく明。それは、終わりに近づこうとしているひとつの川の流れから、新しい川の流れが始まったかのようであった。生きる事に前向きになった老人達と明の姿を喜ぶ百合子。だが、彼女の内面では自分自身の過去との葛藤が続いていることを誰も知らなかった…

4月GWロードショー！

JR新宿駅中央口・三越ウラ
新宿武蔵野館
☎ 03(3354)5670